2 Cp- 8

小学校・教科外活動における調理活動の実態
—「総合的な学習の時間」における調理活動の支援に関する研究Ⅰ—

○湯川夏子* 岩崎礼子** 湯川聰子**
(*神戸学院女子短期大学 **奈良教育大学)

【目的】これまで、私達は「総合的な学習の時間」の支援を目的として、小学校の調理経験の実態や興味関心の方向について調査を行ってきた。今回は小学校の学級活動の中で展開されている様々な調理活動の実態を調査したので結果を報告したい。

【方法】1999年 8月に全国 500校の小学校に対して郵送質問紙調査を行った。調査対象は全国の大都市、市部、郡部の公立小学校から層化無作為抽出を行い、各校教員男女各 1名に回答を依頼した。有効回答数は 55 %であった。

【結果】小学校の教科外活動において、調理を伴う活動は「いもほり」や「クラス会」「キャンプ」などの行事において取り入れられていた。作られているメニューとしては「サンドイッチ」「ごはん」「カレーライス」「ホットケーキ」「やきいも」が上位5位であった。これらのメニューはいずれも3～4年生で実施可能と見なされていた。この他に「おにぎり」「クッキー」「卵料理」も実施可能とする意見が過半数であった。調理の操作別では「野菜の皮むき」や「包丁の使用」は低学年から、「ガスコンロの使用」は4年生から実施可能という意見が多くみられた。

以上の結果より、小学校の教科外活動においてすでに3～4学年で様々な調理活動が取り入れられている現状が明らかになった。これは中学年における同レベルの調理活動を教科学習においても展開できる可能性を示唆しており、「総合的な学習の時間」の学習活動として、多様な応用が期待できるものであった。